
北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会 くとしんパークあり方検討部会(中間報告)

2022年2月25日

1 くとしんパークあり方検討部会について

(1) 北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会くとしんパークあり方検討部会の設置

北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会において、来年度から駅西口エリアの本格的な検討を進めるにあたり、西口駅前広場の整備予定エリアに設置されている転車台等のあり方について、年度内を目途に一定の方向性を決めるため設置。

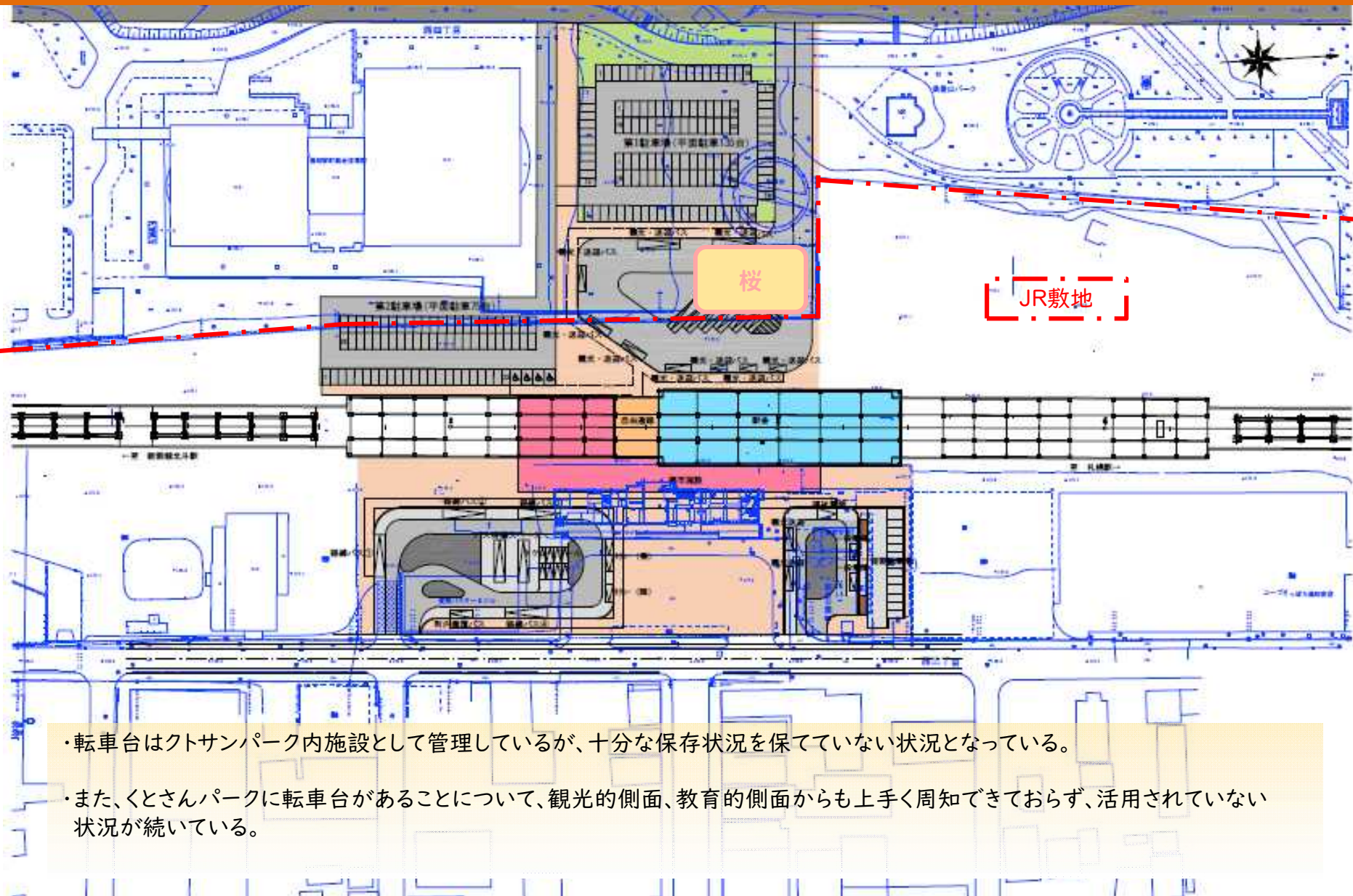
- 構成員 … 座 長 矢吹 俊男
町 内 有 識 者 千坂 昭一、鈴木 秀夫
整備推進委員会委員 柏谷 匡胤、宮武 利裕 (敬称略)
事務局 … まちづくり新幹線課、建設課、社会教育課
- 検討事項
 - ・転車台等のあり方について
 - ①転車台保存 → 公民館のSLと一体で保存の調整が必要か
 - ②転車台移転 → くとしんパーク内や六郷鉄道公園に移設の可能性はあるか
 - ③転車台撤去 → 撤去しても、鉄道遺産としての軌跡を残す検討が必要か

(2) 開催状況、開催予定

- 令和3年度内に4回程度の開催を予定

開 催 予 定	検 討 内 容
1月26日	・ 部会の目的及び倶知安駅周辺整備に向けた検討状況について ・ 旧国鉄 倶知安機関区転車台について
2月16日	・ 転車台の保存、移転、撤去における課題について
3月上旬	・ 転車台の保存、移転、撤去について
3月下旬	・ 転車台の保存、移転、撤去について ・ 方向性の整理

2 転車台の現状



3 第1回くとさんパークあり方検討部会

(1) 開催日時・場所

開催日時：令和4年1月26日（水）16：00～17：05

開催場所：俱知安町役場 2階会議室

(2) 開催内容

- ・あいさつ まちづくり新幹線課長 遠藤 光範
- ・部会員及び事務局の紹介
- ・部会長の選出 … 矢吹部会員を選出

・議 事

(1) 部会の目的及び俱知安駅周辺整備に向けた検討状況について … 資料 1

(2) 旧国鉄 俱知安機関区転車台について … 資料 2

【概要】

- ・駅西口の検討にあたり、文化財保護調査委員会の場合でも「転車台に文化財としてどういう価値があるのか」しっかり議論していかないといけない。
- ・昔を思い出す存在としての価値はあると思うが、今あるものが消えてしまえばそれで終わってしまう。「残し方」ということもあるだろう。
- ・残すとした場合、ある意味観光にも使えるのでは？。高田緑郎氏は国鉄マン、銅像もあり、そういう部分を一括りにすると、観光にも繋がるか？
- ・鉄道関係をまとめた展示があっても良いのではないか？現駅の看板やロクさん銅像などをまとめて見れる場所があったり、動線を作るように配置するなどして見てもらうことを検討しても良いのではないか。
- ・転車台の残す・残さないについては、かなりの費用がかかる。さらにSLともなれば、相当な負担が予想される。残せるものならば残してほしいという想いはあるが、難しいという側面があるならば、それに代わる何かを残してほしい。
- ・観光資源としての文化遺産は、まちおこしにかなり有効な手段であり、資源でもある。
- ・転車台の情報は少ない。どういう費用のかけ方が良いのか、部会で検討できれば良いと思う。費用の捻出の仕方なども方向性があると思う。
- ・転車台施設が、保存に耐えうる状況なのかも調べないといけない。荷重をかけてつぶれてはどうしようもない。
- ・現在地にあるメリットは、新幹線から見えること？俱知安で降りてみようというきっかけ作り。六郷や他にあっても新幹線との一体感はないのでは。
- ・都市施設は西口に面していないが、転車台の景色は、駅の上からの景色というのも大事だと思うので、視点場確保も必要になるか。
- ・駅舎の構想と視点を合わせて考えないといけないか。残すならホームから見えるのが良い。「あれ何だろう？」と見て感じてもらえれば良い。
- ・鉄道関係の施設展示については風土館で対応すればよいという話もあるかもしれないが、連動していかないといけない。駅で知識を得て、六郷の公園に行き、風土館に足を延ばす…という動線を作れるか。
- ・「降った後」の空間が必要と感じた。新幹線に乗っている人がSLを見るんじゃなくて、SLから新幹線という景色も大事かなと思う。
- ・SLは修繕して駆動することは難しいと考えるが、見栄えを良くしていかないと駄目だろう。
- ・将来高速道路が近くに来て、鉄道と道路が上手く文化を繋いでくれて、賑わいのある駅周辺に結びつけば良い。駅周辺の過去～現在～未来を繋ぐのがSLと転車台かもしれない。
- ・「残す、残さない」より、繋ぐものがどのように付加価値を生み出していか、ということが大事。駅周辺は賑わってほしい。
- ・公園管理担当も大変だろうが、自前主義でやっていくとどこかで壁にぶつかる。地域の方たちにいろんなことをお願いすると、そこにある課題を共有することができ、その課題解決の糸口を担当課ともども見出すことが出来るのではないか。

4 第2回くとさんパークあり方検討部会

(1) 開催日時・場所

開催日時：令和4年2月16日（水）16：30～18：00

開催場所：倶知安町役場 2階会議室

(2) 開催内容

・議 事

転車台の保存、移転、撤去における課題について … 資料

【概要】

- ・この部会では保存・移設・撤去の三択ではあるが、「どのような形で活用するか」がメインテーマではないか。
- ・設計ありきになってしまうと、移転するか撤去するしかない。「より良い残し方」を検討していければ。
- ・費用の比較は必要だと思う。
- ・どういう風にしても必ずお金はかかる。「残し方」の問題。「ここにあった歴史を残す」のか、現物を現在地や移設で残すのか。
- ・転車台の価値がどれだけあるか？を示す必要があると思う。この転車台を有効に（学校教育等）使えるなら、残す価値はあると思う。曖昧なイメージだけで「残っていれば鉄道ファンが来るだろう」ではなく、町の歴史を子どもに残せるような仕組みが必要。
- ・農業と鉄道という町の成り立ちを示す重要な施設と考えてはいる。SLと併せて次の時代へ繋いでいければ良いのだが。「資料」は無くなってしまえば終わりであり、現物主義である。
- ・保存となるならば、相当な費用負担があるだろう。動態保存なのか？転車台の強度は？など、新設するくらいの覚悟がないとできない。町の方針として示されれば、対応可能とは考える。町の方針をしっかりと定めることが大事と考える。
- ・過去へのリスペクトが大事。過去～現在～未来を繋ぐ「現物」として、庁内がセクションを超えて対応していかないといけない。「横断的に」と言葉で言うとは簡単だが、難しいことである。「保存」となればお金がかかる。
- ・JR敷地に移設して管理は町でしますから、みたいなお願いはできないものかなど、JRと協議するのも一つではないか。
- ・小さい運動から始めることは大事だと思う。ワンダーキッズで転車台の草刈りをするとか。農業高校の生徒も連携できそう。その様子をSNSで発信していけば、JRとかにも届く可能性はあるのではないか。仮に転車台が無くなったとしても、そういう活動に触れて記憶に残るようにしたい。
- ・SL時代の記憶のある人が町にいううちに、歴史を残さないといけない。
- ・保存・移設・撤去のどれになっても、記憶に残す取組みをしないといけない。予算がなくても、発信できるものがあるのではないか。
- ・今の機運で保存に取り組んでも10年後にはあれ？というような状況になる可能性だってある。
- ・担当課だけの話ではない。役場と地域で作り上げるという方向性が大事。
- ・横に移設ではなく下に下げることで、転車台を上から見ることで管理しやすくなるなど、アイデアも必要だろう。
- ・仮に撤去となっても、歴史を残すことは必要である。ここは東京ではなく田舎の倶知安、新しいものを築いていだけでなく、「残すもの」の考えも必要だろう。どうやったら倶知安町が良くなるのか、の話である。
- ・過去～現在～未来を繋ぐ「実物」の大切さがある。